

**今井祇園行事** 福岡県指定無形民俗文化財。天下泰平・五穀豊穰・無病息災・厄除開運を祈願し、今井津須佐神社に奉納される夏の祭礼行事です。大祭二日目の夜は「夜祇園」と呼ばれ、古くより豊前地方の人々に親しまれてきた夜市で賑わいます。神社参道に露店が並び、多くの参拝者が訪れます。今井津は、瀬戸内海に面した港湾として栄えてきた地域。天然の良港「蓑島」「杓尾」「長井」「稲童」。中世鋳物職人の集落「金屋」で作られた「梵鐘」などが往時をしのばせます。祓川河口の今井から元永地区周辺を舞台として「今井祇園祭」は執り行われます。「連歌」「山」「ハツ撥」の行事が織りなす、豊前地方の夏の風物詩。



夜祇園



今井津遠景（南側上空より）

**今井津須佐神社** 旧称は今井津祇園社。「須佐神社」「今井祇園」「今井の祇園さん」「今井の祇園さま」と呼ばれ親しまれている豊前地方の代表的な祇園社。祭神は須佐之男命・八王子・稲田姫命。北部九州一円より、無病息災・厄除開運を祈願する多くの参拝者が訪れます。また、北部九州各地に多くの分社があります。神社の起源は諸説ありますが、一説には鎌倉時代の建長6年（1254）、祓川河口の今井津に疫病が流行した時、京都の祇園社を豊前国の今井津へ勧請し祀った翌年から疫病退散の御礼として神事を執り行ったのが今井祇園祭の始まりとされています。なお、須佐神社に並列して、元永・長井地区の氏神である大祖大神社（旧称は妙見社）が鎮座しています。拝殿が共通であるためひとつの神社のように見えますが、神殿は別々です。二社あることから「ご両社」とも呼ばれています。

〒824-0015  
福岡県行橋市大字元永1299  
TEL・FAX 0930-22-6932  
今井津須佐神社・大祖大神社社務所

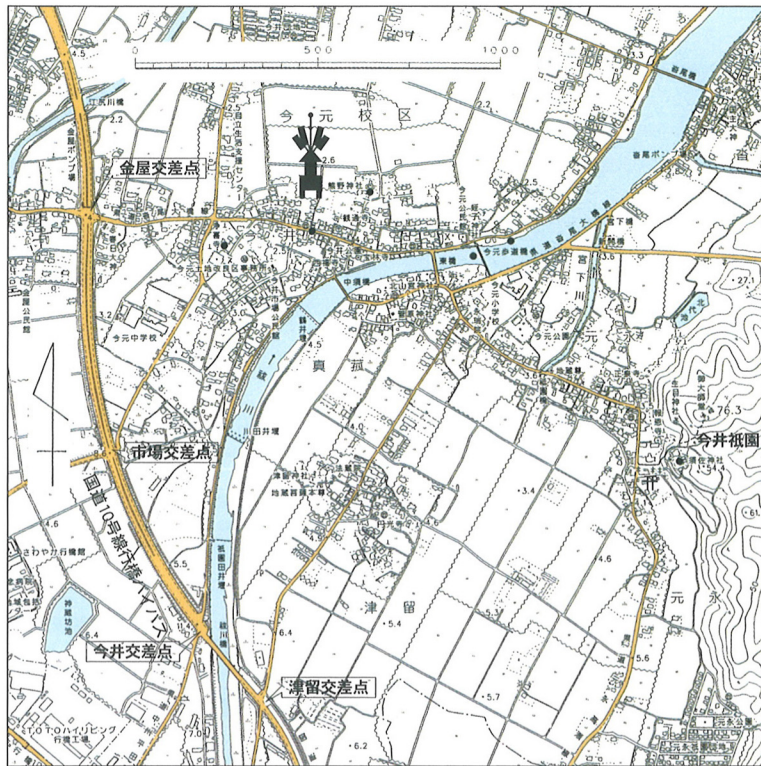
**交通**  
J R九州日豊本線  
平成筑豊鉄道田川線「行橋駅」下車  
車で東へ約4km。  
（行橋駅より車で約10分）



今井津須佐神社・大祖大神社拝殿

■参考インターネットホームページ（映像など）：  
・ふくおか民俗芸能ライブラリー [http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/e\\_mingei/](http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/e_mingei/)  
・地域文化資産ポータル <http://bunkashisan.net.jp> ※映像「平成12年度 今井祇園祭」を公開しています。

## 位置図



文化財愛護シンボルマーク  
両手のひらと日本建築の伝統的要素である組物（くみの）をイメージしたパターンを3つ重ねることにより、過去・現在・未来にわたる永遠の伝承を表現したものです。

## 行橋市教育委員会

〒824-8601 福岡県行橋市中央 1-1-1  
TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582  
行橋市ホームページアドレス  
<http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/>

福岡県指定 無形民俗文化財

# 今井祇園行事



|         |                                                                                                             |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〔指定名称〕  | 今井祇園行事(通称：今井祇園祭・今井祇園)                                                                                       |
| 〔指定種類〕  | 福岡県指定 見形民俗文化財                                                                                               |
| 〔指定年月日〕 | 昭和35〔1960〕年1月5日(無形文化財)<br>昭和51〔1976〕年4月24日(無形民俗文化財)<br>※文化財保護法改正に伴う指定種の変更                                   |
| 〔伝承地〕   | 福岡県行橋市大字今井～大字元永周辺<br>(旧豊前国仲津郡今井津周辺〔旧小倉藩領〕)<br>※今井津(今居津):中世に繁栄した瀬戸内海西部の港湾に由来する。祓川河口の広域地名。今井・元永・杓尾・長井・金屋・蓑島周辺 |
| 〔伝承組織〕  | 今井津須佐神社、同氏子会、各山笠・笠鉾奉納区(今井東町・今井西町・今井中須町・元永・金屋・真菰・杓尾)、今井津周辺の集落                                                |
| 〔祭礼期間〕  | 7月15日頃～8月初旬頃。<br>〔旧暦5月25日～6月15日〕<br>大祭は7月末ないしは8月初旬頃の金土日曜日の3日間<br>※平成14年以前は7月15日～8月3日。大祭は8月1、2、3日            |
| 〔主要行事〕  | 連歌、山、ハツ撥                                                                                                    |

## 行橋市教育委員会



「連歌」

連歌(れんが) 連歌とは、長句（五・七・五）と短句（七・七）を交互に詠み連ねて、つくってゆく詩歌。複数の人物が句を出して詠み継ぐ文芸で、句数は、百韻(百句)、五十韻(五十句)、世吉(四十四句)等を単位として、発句から挙句まで、春夏秋冬の季節・景色・恋などの句を織り交ぜて構成されます。句は変化を尊ぶゆえに「式目」(規則)にのっとり作られます。連歌は娯楽と連帯の場として大衆の間で好まれ、特に中世以降に各地で盛んに行われました。

奉納連歌(ほうのうれんが) 法楽連歌とも。連歌を神仏に奉納すること。法楽とは仏教用語で、詩歌を誦し、または楽などを奏して本尊に供養すること。詩歌は神仏に捧げる最高のお供えとされました。

今井祇園行事の連歌 今井津須佐神社に奉納されつづけている連歌は室町時代の享禄3年(1530)に始まるとされます。我が国で連歌がすたれた明治時代以降も途切れず、今日まで継承されている希少な伝統行事です。奉納される連歌のうち、一卷は、現在では全国的にも珍しい「笠着連歌」。(特定の人物だけでなく一般の人が飛び入りで句を詠み継ぐです。)今井西町の山のそばで行われる「車上連歌」は全国でここにしか残っていない笠着連歌であり、貴重な文芸行事です。



社頭連歌発句定め並びに一巡



鉦おろし



社頭連歌



車上連歌発句定め並びに一巡



車上連歌

浄喜寺の連歌座で詠まれた句を受け、今井西町の山の下に集った一般の人々が即興で句を詠み、連歌一卷を完成させる笠着連歌。参集の人々が、「五・七・五」の長句と「七・七」の短句を、最後の挙句まで、詠み継ぐ車上連歌は必見の文芸行事。

「山」 ～豊前地方最大の幟山～  
山(やま) 今井祇園行事の山は曳山(車輪付きの引き動かす山)と昇山(車輪の無い担ぎ上げて動かす山)の二種類。曳山の構造は「二層吹抜屋形四輪式の鉦」。2本の柱がそびえ立つ特徴を持ち、京都祇園祭の山鉦の系譜に連なるとされます。山の高さ約15m。楠の車輪の直径1.5mで、豊前地方最大の幟山です。かつて山は祇川を川渡りして、6基の山(今井東町、今井西町、今井中須町、金屋は曳山、元永、真菰は昇山)が今井市場町と神社の二ヶ所に集合していたといわれます。鉦や太鼓の囃子にあわせて繰りひろげられる山曳きは勇壮で圧巻。



輪上げ



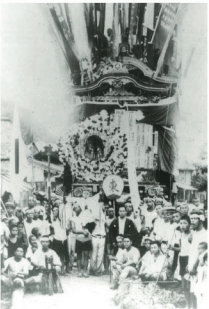
山建て

今井祇園行事の流れ(※平成■年現在)  
※交通規制等に御注意願います。  
※期日と内容が変更になることがあります。  
※祭礼期間：7月15日頃～8月初旬頃。大祭は7月末ないしは8月初旬頃の金土日の三日間【平成14年から】（もとは7月15日から8月3日・大祭は8月1,2,3日。旧暦5月25日～6月15日）

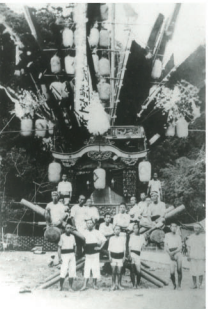
祭りの始まり：7月15日頃  
7月15日頃 社頭連歌発句定め並びに一巡 7月15日頃に今井地区（熊野神社）で行われる今井祇園祭初めの行事。連歌の座を一巡して、連衆により詠み出された句を披露する。  
鉦おろし 祭の始まりを告げる囃子。正午頃、句の披露の際に、囃子衆の手により締太鼓・鉦を勢いよく打ち鳴らす。  
7月21日頃 社頭連歌 7月15日の句を受け、21日頃に今井津須佐神社の拝殿で行われる連歌座。同じ連衆によって世吉連歌（四十四句仕立ての連歌）を一巻完成させ披露。  
7月後半 ハツ撥おくじ取り 稚児のハツ撥を決める行事。  
7月後半 注連立て 注連を、集落の入り口や境や辻々に立てる。  
7月後半 輪上げ 山の行事始め。祇川の川床に日ごろ埋められている巨大な車輪を掘り上げて、町民総出で、各町まで運ぶ。  
7月後半 山建て 山を組み立てる作業。  
7月後半 車上連歌発句定め並びに一巡 今井市場町の浄喜寺で行われる連歌座。座を一巡して、連衆により詠み出された句を披露する。今井西町の車上連歌へと引き継がれる。

大祭：7月末ないしは8月初旬頃の金土日曜の三日間  
大祭一日目 提灯山曳き 提灯に火を灯した山が巡行。  
大祭二日目 花見の座 熊野神社での各町のハツ撥と花傘を関係者に披露する神宴。  
車上連歌 浄喜寺での連歌座の句を受け、大祭2日日夜8時頃より、今井西町の山周辺にて行われる連歌。一般参拝者から句を募り、世吉連歌（四十四句仕立ての連歌）を一巻完成させ披露。  
夜祇園 今井津須佐神社参道に露店が並び、多くの参拝者で賑わう。  
大祭三日目 町内花見の座 ハツ撥奉納直前の、各町でのハツ撥と花傘とを中心とした神宴。  
飾り山曳き 色鮮やかな幟と胴幕で飾られた山が巡行。  
ハツ撥奉納【祇川川渡り・納幣・心花奉納・桶かぶり】 行列を従えて稚児のハツ撥が今井津須佐神社に社参。花傘の「心花」と巨大な「大幣」を神殿に奉納する神事あり。

※桶かぶり 眉おとし行事(桶かぶり・桶こかしともいう)は今井祇園祭の全ての行事を締めくくる儀。神社での神事終了後、各町でハツ撥のタカマユを桶の水で洗い落とす。その時、「ハツ撥」は普通の子供にもどる。青年たちが、神水の恩恵にあずかろうと激しく桶を回し争う。最後に桶を高々と差し上げ、3回まわして地面に伏せ行事は終わる。青年頭、主願(祭り役員)の二本締めの手打ち式で一切を締めくくる。



今井東町の山(曳山)



元永の山(昇山)



飾り山曳き

「ハツ撥」

ハツ撥(やつぱち) 籤で選ばれた子供を神にみたて、別火潔斎の生活を経て神聖視します。一説に語源は「鞆鼓」(かつこ)という囃子の意味だとも、祭神の八王子(五男三女)をさすともいわれます。かつては、ハツ撥を山に乗せて、今井津須佐神社まで巡行し社参していたと伝えられます。祇川の川渡りがみどころ。

花傘(はなかさ) ハツ撥に付き従って、邪悪な霊を祓う呪具とされます。花傘は、一年の日数である365本の花串で出来ているとか。花傘の中央につるされているのが「心花」。奉書に包まれ一年の月の数である12本の花串からなります。閏年は13本。祭最終日に、神社神殿に「心花」と巨大な「大幣」を奉納。祭終了後、町内、関係者、協力者、寄付者への御礼まわりの際、花傘を解体し花串が配られます(花配り)。花傘(通称、はな)は、古来、腹痛や牛馬の病気・難産の時にその花びらや中心のアズキは効能あらたかなものといわれます。



花傘



花見の座〔熊野神社にて〕



川渡り〔祇川にて〕



眉おとし

桶かぶり